

第 60 回日本赤十字社医学会総会報告

石巻赤十字病院 放射線技術課

救急撮影技術係長 高橋和也

第 60 回日本赤十字社医学会総会が 2024 年 10 月 17 日(木)~18 日(金)の 2 日間、宮城県仙台市の仙台国際センターで開催されました。2017 年の第 53 回でも当院が主催を務めました、7 年の時を経て、再び当院が主催を務める事となりました。



今回は、約 1 年半前に当院の日赤医学会運営事務局より、プロジェクトチームを結成して望むため、放射線技師からもメンバーを選出してほしいとの依頼があり、私もプロジェクトチームの一員として会の運営に携わらせていただきました。

プロジェクトチームは、医師・看護師・事務・薬剤師・臨床工学技士・放射線技師の 16 名で構成され、会の運営について、打ち合わせや情報共有を行い、会全体の流れや懇親会、様々な企画なども検討しました。昨年の京都での開催時にも参加させてもらい、京都第一赤十字病院様の運営の様子も拝見させていただきました。

日赤医学会前日の 10/16(水)より被災地視察プログラム、夜には前夜祭が開催されました。私は院内業務のため参加ができなかったのですが、被災地視察プログラムは 31 名の参加、前夜祭は 87 名の参加という事で盛況だったとお聞きしました。前日にも関わらず多くの方々に参加していただき、当院のプロジェクトチームとしても、企画した甲斐があったと充実感を得ております。参加してくださった皆さんありがとうございました。

放射線部門では、1日目にポスター発表が行われました。ポスター演題は6演題となっており、一般撮影・CT・血管撮影・放射線治療・タスクシフトなど様々な分野の発表がありました。日赤同士で各施設の取り組みを共有する事ができ、非常に和やかな雰囲気で終えられました。

夜に開催された「医療人の集い」では、719名の方に参加していただき、宮城県のご当地料理や各地域の日本酒が振舞われ、1日目の疲れを癒す時間となったのではないのでしょうか。仙台市の伊達武将隊による開宴の合図から始まり、白Aの演出など非常に盛り上がっておりました。

全国各地から多職種が参加できるこのような大規模な懇親会は、他には、なかなかないのではないかと感じており、日本赤十字社として「日本赤十字社医学会総会」に対する強い思いを改めて体感する事ができました。個人的にも、職種そして施設の垣根を越えての交流は非常に重要であると考えております。



2日目は、放射線部門では口述発表が行われました。17演題と多数応募していただいた事もあり、3セッションでの開催となりました。私は座長を務めさせていただきましたが、興味深い演題が多数あり、自施設でも活用できる内容や、新たな気づきにも繋がる内容がありました。

ポスター発表と口述発表合わせて23名の方に参加していただきました。日常業務で忙しい中、発表してくださった皆様、聴講で参加してくださった皆様、会を盛り上げていただきありがとうございました。また、口述発表の座長を盛岡赤十字病院様にもご協力していただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。



今回の日赤医学会は、放射線部門だけではなく、裏方である運営の方にも関わらせてもらいました。特別講演の「矢野きよ実」さんのご講演では、震災時の子供達の写真や、子供達を書いた書、矢野さんが書いてくださった書をお覧できるように、実際にステージ上に登壇してご協力させていただき、非常に貴重な体験となりました。その書からは、見ていだけで非常に力が湧き、私のこれからの人生において力の源になるなと感じました。

他にも未来の人材確保のために、石巻市の高校生を招待して、演題発表や講演の聴講、企業展示へも参加してもらいました。皆さん熱心に話を聞いており、将来の夢へ前進してもらえれば良いなと考えております。また、当院の看護学生にも運営を協力してもらい、本当に多くの方々のお陰で、この会を無事に終えられたと実感しております。

今回は当院からは4名の放射線技師が参加しました。来年は埼玉赤十字病院様が主催となっているため、日常業務と並行しての準備で大変かと思いますが、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りしております。

